

1. 石部高校介護職員初任者研修にともなう公開情報

情報の種類	
法人情報	滋賀県立石部高等学校 住 所 〒520-3112 滋賀県湖南市丸山二丁目3番1号 代表者 校 長 青山 吉伸
研修事業	滋賀県立石部高等学校 住 所 〒520-3112 滋賀県湖南市丸山二丁目3番1号 代表者 校 長 青山 吉伸 担当者 教 諭 村 元 研 二
指令年月日等	平成30年9月27日 滋賀県指令医福第1770号
理念	福祉健康コース福祉ライフ系の生徒に対して、介護に関する学習と進路に向けた資格取得をめざす。
取得対象者	滋賀県立石部高等学校 福祉健康コース希望者
カリキュラム	カリキュラム日程表を参照
研修施設・設備	滋賀県立石部高等学校介護実習室、普通教室 介護用ベッド、車いす、ポータブルトイレ、簡易浴槽
実習先	社会福祉法人 八起会（当初見学・最終見学）
実績情報	平成27年度14名修了 平成28年度7名修了 平成29年度9名修了
受講者へのメッセージ	高齢者介護施設などの事業所で、介護職員として介護サービスを提供するための基礎的な知識・技能の修得を目指します。

2. 研修区分

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通 学	通 信	実 習	計	
1 職務の理解 (6時間)	4	—	2	6	(到達目標)介護職が働く現場や仕事内容を具体的に理解させる
(1)多様なサービスの理解	2	—	—	2	(講義)介護保険サービス、介護保険外サービス (演習)時事資料をもとにしたサービスの理解
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	2	—	2	4	(講義)介護サービス提供現場の具体的なイメージ (演習)施設見学を通して介護職が働く現場や仕事内容についてグループワークをおこなう
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	9	—	—	9	(到達目標)自立支援・介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解させる
(1)人権と尊厳を支える介護	5	—	—	5	(講義)個人の尊厳、利用者のプライバシー保護、ノーマライゼーション、QOL (演習)権利侵害についてのグループワーク
(2)自立に向けた介護	2	—	—	2	(講義)自立支援、意欲を高める支援
(3)人権に関する基礎知識	2	—	—	2	(講義)人権に関する基礎知識 (演習)介護職として人権侵害の対応の仕方を話し合う。
3 介護における基本 (6時間)	6	—	—	6	(到達目標)介護のめざす基本的なことを考える。
(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	—	—	2	(講義)介護環境の特徴、介護の専門性、介護にかかわる職種 (演習)チームケアの重要性や役割、課題を話し合う
(2)介護職の職業倫理	2	—	—	2	(講義)介護職としての社会的責任、プライバシーの尊重・保護
(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	—	—	1	(講義)介護における安全性の確保、事故防止・安全対策、感染症対策 (演習)リスクと予防のための対策を話し合う
(2)介護職の安全	1	—	—	1	(講義)介護職の心身の健康管理、感染症対策、腰痛対策
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)	9	—	—	9	(到達目標)介護保険制度や障害者総合支援の概要を把握、サービス提供者としての役割を理解する
(1)介護保険制度	4	—	—	4	(講義)介護保険制度の創設と仕組み、制度を支える財源

					(演習) 事例にもとづいたグループワーク
(2) 医療との連携とリハビリテーション	3	—	—	3	(講義) 医療行為と介護の違い、リハビリテーションの理念 (演習) 事例をもとに介護職と看護職の連携を考える
(3) 障害者総合支援制度およびその他制度	2	—	—	2	(講義) 障害者福祉の理念、障害者自立新制度の仕組み
5 介護におけるコミュニケーション技術 (6 時間)	6	—	—	6	(到達目標) 専門職に求められるコミュニケーションの意味を考え、基本的なコミュニケーション技術を学ぶ
(1) 介護におけるコミュニケーション	3	—	—	3	(講義) 介護におけるコミュニケーションの意義と目的、具体的なコミュニケーションの技法や対象者に応じたコミュニケーション技術 (演習) 様々な利用者を想定したコミュニケーション
(2) 介護におけるチームコミュニケーション	3	—	—	3	(講義) 介護における記録の意義、チームにおける情報の共有化、連絡・報告・相談の留意点 (演習) 適切な記録の方法と情報の共有化についての演習
6 老化の理解(6 時間)	6	—	—	6	(到達目標) 老化に伴う心身の変化や疾病などについて理解する
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	—	—	3	(講義) 老化に伴う心身の変化や日常生活への影響を考える (演習) 高齢者疑似体験
(2) 高齢者と健康	3	—	—	3	(講義) 高齢者に多い疾病について考える
7 認知症の理解(6 時間)	6	—	—	6	(到達目標) 認知症について理解し、介護現場において効果的な援助ができるようになる
(1) 認知症を取り巻く状況	1	—	—	1	(講義) 認知症ケアの視点とケアの理念 (演習) 認知症についての話し合い
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	—	—	2	(講義) 認知症の定義、健康管理、薬物療法
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1	—	—	1	(講義) 認知症の人の生活困難状況と対応 (演習) 認知症利用者への対応の仕方を話し合う
(4) 家族への支援	2	—	—	2	(講義) 認知症高齢者を抱える家族への支援 (演習) 介護の負担軽減について考える
8 障害の理解(3 時間)	3	—	—	3	(到達目標) 障害の概念と障害者福祉についての基本的な考え方について理解する。
(1) 障害の基礎的理解	1	—	—	1	(講義) 障害者福祉の基本理念とノーマライゼーション
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識	1	—	—	1	(講義) 身体障害・知的障害・精神障害・その他の障害について

(3)家族の心理、かかわり支援の理解	1	—	—	1	(講義) 障害者を抱える家族への支援 (演習) 介護の負担軽減について考える
9 ころとからだのしくみと生活支援技術(75 時間)		—	—		(到達目標) 心身の機能や構造について理解し、安全な介護技術を習得する
(1)介護の基本的な考え方	4	—	—	4	(講義) 理念に基づく介護と法的根拠に基づく介護
(2)介護に関するころのしくみの基礎理解	4	—	—	4	(講義) ころとからだの関係、感情と意欲に関する基礎知識
(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	—	—	4	(講義) ボディメカニクスの活用、人体に関する基礎知識
(4)生活と家事	4	—	—	4	(講義) 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と支援
(5)快適な居住環境整備と介護	4	—	—	4	(講義) 高齢者と障害者の居住環境にかかわる基礎的知識、福祉用具に関する基礎的知識
(6)整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	8	—	—	8	(講義) 整容に関する基礎知識 (演習) 衣服の選択・着脱の介護について
(7)移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	8	—	—	8	(講義) 移動・移乗に関する基礎知識 (演習) 車椅子の操作、体位変換
(8)食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	8	—	—	8	(講義) 食事に関する基礎知識 (演習) 食事の介護、口腔ケア
(9)入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	8	—	—	8	(講義) 入浴・清潔保持に関する基礎知識 (演習) 入浴介護や清潔保持
(10)排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	—	—	6	(講義) 排泄に関する基礎知識 (演習) トイレへの誘導、ポータブルトイレ・おむつの使用
(11)睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	4	—	—	4	(講義) 睡眠に関する基礎知識 (演習) 安眠のための介護の工夫、環境の整備
(12)死にゆく人に関連したころとからだのしくみと終末期介護	3	—	—	3	(講義) 死に向かうころの理解、終末期ケア (演習) 終末期の利用者への介護のあり方を考える
(14)介護過程の基礎的理解	4	—	—	4	(講義) 介護過程の目的や意義・具体的な展開・チームアプローチ
(15)総合生活支援技術演習	6	—	—	6	(講義) 事例による展開 (演習) 事例の分析・援助計画等をグループで研究し、発表。また、新たな課題を発見していく。
10 振り返り(4 時間)	2	—	2	4	(到達目標) 研修全体を振り返り、学習内容の再確認をおこなう。研修終了後も継続して学習する姿勢を形成する。
(1)振り返り	1	—	2	3	(講義) 研修を通して学んだことを施設見学も含めて考える
(2)就業への備えと研修終了後における継続的な研修	1	—	—	1	(講義) 今後継続して学ぶべきこと

3. カリキュラム日程表

研修日時	時間 (h)	科目番号 教科番号・教科名	講師名
平成30年 10月	2 4	開講式 1(1)多様なサービスの理解 2(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	高校教員 高校教員 高校教員
平成30年 11月	5 2 2	2(1)人権と尊厳を支える介護 2(2)自立に向けた介護 2(3)人権に関する基礎知識	高校教員 高校教員 高校教員
平成30年 11月 12月	4 3 2	4(1)介護保険制度 4(2)医療との連携とリハビリテーション 4(3)障害者総合支援制度およびその他の制度	高校教員 医師,理学療法士 高校教員
平成30年 12月	1 1 1	8(1)障害の基礎的理解 8(2)障害の医学的側面,生活障害,心理・行動の特徴,かかわり支援等の基礎的知識 8(3)家族の心理、かかわり支援の理解	高校教員 高校教員 高校教員
平成31年 1月	3 3	6(1)老化に伴うところとからだの変化と日常 6(2)高齢者と健康	高校教員 高校教員
平成31年 1月	2 2 1 1	3(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携 3(2)介護職の職業倫理 3(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント 3(4)介護職の安全	高校教員 高校教員 看護師 看護師
平成31年 2月	3 3	5(1)介護におけるコミュニケーション 5(2)介護におけるチームコミュニケーション	高校教員 高校教員
平成31年 2月 3月	1 2 1 2	7(1)認知症を取り巻く状況 7(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 7(3)認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 7(4)家族への支援	高校教員 高校教員 高校教員 高校教員
平成31年 4月	4 4 4	9(1)介護の基本的な考え方 9(2)介護に関するところのしくみの基礎的理解 9(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	高校教員 高校教員 高校教員
平成31年 5月	4 4	9(4)生活と家事 9(5)快適な居住環境整備と介護	高校教員 高校教員
平成31年 5～12月	8 8 8 8 8 6 4 3 4 6	9(6)整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 9(7)移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 9(8)食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 9(9)入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 9(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 9(11)睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 9(12)死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末介護 9(14)介護過程の基礎的理解 9(15)総合生活支援技術演習	高校教員 高校教員 高校教員 高校教員 高校教員 高校教員 高校教員 高校教員 高校教員 高校教員
平成32年 1月	3 1	10(1)振り返り 10(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	高校教員 高校教員
計	130	時間数内訳（通学130時間）	

平成32年 1月	1	修了評価筆記試験 修了判定会議、試験結果集計・採点・合否発表	高校教員 高校教員
平成32年 2月		修了式	

4. 研修終了の評価方法と合格基準

①出題範囲

介護技術における尊厳の保持・自立支援からこころとからだのしくみと生活支援技術までとする。

②出題形式

記述形式、語句選択形式、正誤選択形式

③出題数と配点方法

正誤選択問題 20問(1問2点 40点)

語句選択問題 20問(1問2点 40点)

語句記述問題 5問(1問4点 20点)

合計 45問(100点満点)

④合否判定基準

100点満点のうち、「70点以上」で合格とし、「70点未満」を不合格とする。

⑤不合格になったときの対応方法

不合格者に対しては、1時間以上の補講行った後、再評価を行う。

補講及び再評価は養成期間内に行う。

補講料・再試験料は無償。